

令和5年度 中央区運営方針

(所属長：稲嶺 一夫)

「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」

目標	「大阪を代表するビジネス・観光の拠点として多くの人で“にぎわい”繰返し訪れたい魅力的なまち」「豊かなコミュニティのもと“ふれあい”支え合う、ずっと暮らし続けたいまち」の実現
使命	“にぎわい”と“ふれあい”あふれるまちづくりを推進するため、次の使命を担う ・職員の福祉マインドを強化し、区民に寄り添い、気にかけて、気づき、必要な支援につなげる ・区民に生活の質向上を感じてもらえるよう、ICTを活用し行政サービスの利便性を高める ・戦略的な情報発信により、必要な時に必要な情報を区民に届ける ・公民連携して協働することにより、地域住民、商店会、企業・団体、大学等それぞれの持つ力を生かす
令和5年度所属運営の基本的な考え方	価値観の多様化やマンション等共同住宅の居住者が9割を超える中央区の特性をふまえ、マンションコミュニティと、行政、地域コミュニティが、より柔軟に“ゆるやかにつながるまちづくり”を各経営課題共通の基本方針とする。住民同士のセーフティネットの構築をめざし、令和5年度には、その第1ステップとして、区民の関心の高い「防災」を切り口にマンションコミュニティへのアプローチに重点的に取り組む。

重点的に取り組む経営課題

経営課題1 繰返し訪れたいにぎわいのあるまちづくり

		3決算額	12,927千円	4予算額	14,177千円	5予算額	19,177千円
課題認識	当区は古くから大阪の経済・文化の中心地として国内外から多くの人々が訪れ、近年は、大阪城や道頓堀などで多くの外国人観光客が活況を呈してきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により国内はもとより、当区のにぎわいも深刻なダメージを受けている。 ダメージからの「再生」に取り組む商店会、企業、関係団体等と連携・協働し、「再生」とさらにその先をも見据え、地域が活性化し、持続的にまちがにぎわうよう取り組んでいく必要がある。						
主な戦略 (課題解決の方策)	多彩な魅力の創出と情報発信による持続的なにぎわいづくり ・行政機関と商店会や企業、関係団体等と連携・協働し、地域や近隣に住む人々に愛され、内外から多くの人々が「繰返し訪れたい」魅力を創出する。 ・2025大阪・関西万博の開催機運の高まりとも連動させながら、歴史や文化に彩られ、なおもダイナミックに変容していくまちの魅力を戦略的に発信していく。						
アウトカム 指標 (経営課題の進捗度を示した指標)	中央区役所及び区役所と商店会、企業、関係団体等が協働で発信するまちの魅力情報発信コンテンツの閲覧数：令和4年度実績以上						
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成					前年度実績	
	465,487回				A	372,202回	

経営課題2 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

3決算額

10,249千円

4予算額

12,186千円

5予算額

11,171千円

課題認識

- (防災)
- ・マンション居住者の多い当区の特性に応じた具体的な防災行動につながるよう、さらなる普及啓発が必要である。特に、地域と関わりの薄いマンション居住層へのアプローチ手法を新たに構築する必要がある。
 - ・中央区は大阪市内で最も昼間人口が多く、昼間に大規模災害が発生した場合には多くの人が帰宅困難になることが想定されている。
- (防犯・環境浄化)
- ・2025大阪・関西万博の開催にあわせ、まちの環境美化にかかる区民の意識をより向上させる必要がある。
 - ・区民の犯罪被害を防ぐための普及啓発に継続して取り組んでいく必要がある。

主な戦略 (課題解決の方策)

- (防災)「マンション防災」を軸とした災害に強いまちづくり
- ・従来からの地域防災組織への支援を継続するとともに、マンション居住者向けの講演会やワークショップなどマンション固有の防災対策の必要性を普及啓発する。
 - ・マンションの管理会社・管理組合にアプローチし、マンション単位での防災の取組状況や課題を把握し、ニーズに合った支援をしていくことで、マンションコミュニティの防災力を高める。
 - ・帰宅困難者を生み出さないため、企業等が自ら帰宅抑制や備蓄などの対策をとるよう働きかける。
- (防犯・環境浄化) まちを愛する区民とつくる安全・安心で快適に暮らせるまちづくり
- ・防犯キャンペーンを定期的の実施するとともに、広報紙やホームページ等で効果的な防犯啓発活動の情報発信を行う。
 - ・2025大阪・関西万博の開催の機運醸成とあわせ、地域や企業との協働によるまちの環境美化キャンペーンなど、まちを愛する多くの区民が参加するまちづくりに取り組む。

アウトカム 指標 (経営課題の進捗度 合を示した指標)

- (防災)
- 区内マンションと防災に関わる支援等のアクションにつながった回数：R9年度末までに延べ200件以上
- (防犯・環境浄化)
- まちの環境美化活動に参加したボランティアの数：延べ1,000人以上／年

アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)

5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成

前年度実績

55件

A

1,447人

A

965人

経営課題3 子どもの未来をみんなで育むまちづくり

3決算額

15,020千円

4予算額

21,206千円

5予算額

23,120千円

課題認識

(子育て)
・児童虐待の懸念や子どもの貧困等、外からは見えにくい家庭内の課題を早期に見つけ支援につなげる必要がある。
・保護者が孤立せず、安心して子育てできるよう仲間づくりや気軽に相談できる場が必要である。

(子どもの学び)
・子どもたちの学びを取り巻く環境は複雑化しており、新型コロナウイルス感染症を背景とした不登校児童生徒の増加等、学校園の実情に応じた学習環境づくりの支援が必要である。
・区内では外国につながる児童生徒等が増加している。学習支援だけでなく、本人や保護者が地域で孤立しないようきめ細やかな支援が求められる。

主な戦略
(課題解決の方策)

(子育て) 安心して子育てができる環境づくり
・重大な児童虐待を防止するため、地域の関係機関・団体とのネットワークの拡充により、子ども・子育て支援体制を強化し見守りや支援を要する子ども・世帯の早期発見・支援につなげる。
・子育て世帯のニーズに沿ったより交流・相談しやすい場を提供するとともに、こうした子育て支援情報の発信を強化する。

(子どもの学び) 子どもや学校を応援する学びのネットワークづくり
・区の子どもたちを取り巻く課題や学校園のニーズに応じた学びの支援に取り組む。とりわけ、新型コロナウイルス感染症拡大を背景に増加している不登校児童生徒の支援に重点的に取り組む。
・外国につながる住民が社会を担い自分らしく活躍できるよう、外国につながる子どもや若者、子育て中の保護者に対し、それぞれのライフステージに応じた支援を行う。

アウトカム
指標
(経営課題の進捗度
含を示した指標)

(子育て)
子育て支援ネットワークの拡充により、発見した子ども・世帯の継続フォロー数（見守りや支援につながった数）：令和9年度末までに延べ70件以上

(子どもの学び)
登校支援等を実施した児童生徒に継続的な登校の再開や不登校の状態の改善が見られる割合 令和9年度末までに50%以上

アウトカム
指標の達成状況
(定量評価)

5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成

前年度実績

5年度実績：53件／2年度～5年度：延べ89件

A

2年度～4年度：延べ36件

70%

A

経営課題4 誰もが幸せに暮らせるまちづくり

3決算額

93,737千円

4予算額

106,740千円

5予算額

105,722千円

課題認識

- (地域コミュニティ)
- これまで培われてきた豊かなコミュニティが今後もまちの礎となるよう、高齢化や参加者の減少など地域の事情に応じ、継続した支援が必要である。
 - 地域とつながるきっかけが無い層・関心が薄い層が増えている。中央区の住民の9割以上がマンションに居住していること、価値観の多様化やライフスタイルの変化をふまえ、これまでとは違うより柔軟なつながりのあり方が求められている。
- (地域福祉)
- 高齢者や障がい者が安心して暮らせるよう地域での居場所づくりや見守りなどの支援を広げるとともに、必要とする方はもとより、全ての区民にしっかりと周知していく必要がある。
 - 健康寿命を延ばすとともに、医療や介護が必要となっても自宅で暮らしていけるよう地域包括ケアシステムの強化が必要である。
 - 社会から孤立し支援につながらない、または複合的な課題を抱え支援が困難となる方が支援につながるよう行政機関・地域・区民が一体となって取り組む必要がある。

主な戦略 (課題解決の方策)

- (地域コミュニティ) つながりふれあう豊かなコミュニティづくり
- 引き続き、地域の実情に応じたきめ細かな支援を行い、より多くの住民参加による自律的な地域運営を促進する。
 - マンションコミュニティへのアプローチから、地域活動全体への参加促進につなげるよう取り組む。
- (地域福祉) 健やかでいきいきと暮らせるまちづくり
- 見守り相談室や支援機関と地域が連携し、高齢者等の支援を必要とする人の把握に努め、見守り活動の充実を図る。
 - 高齢者等の健康増進と介護予防活動などの支援に取り組むとともに、在宅高齢者福祉の機能強化・医療介護の連携強化を図る。
 - 誰もが誰かを「気かけ、つながり、支え合える」まちとなるよう、見守りのしくみや高齢者支援等に関する情報発信を強化する。

アウトカム 指標 (経営課題の進捗度 合を示した指標)

- (地域コミュニティ)
区役所や地域とつながりができたマンションの数：令和9年度末までに延べ100棟以上
- (地域福祉)
地域福祉コーディネーターによる新たに見守りを行った人数：令和4年度実績以上

アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)

5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成

前年度実績

32棟

A

341人

A

227人

自己評価 (運営方針全体の定性評価)	中央区がめざす“ゆるやかにつながるまちづくり”の実現に向けて設定した「アウトカム指標」(経営課題の進捗度合を示した指標)は、7項目全てにおいて目標を達成しており、めざす姿の実現に向けて着実に進捗しているものと評価する。
今後の方針	価値観の多様化やマンション等共同住宅の居住者が9割を超える当区の特性をふまえ、マンションコミュニティと、行政、地域コミュニティが、より柔軟に“ゆるやかにつながるまちづくり”を各経営課題共通の基本方針とする。住民同士のセーフティネットの構築をめざし、令和6年度には、マンションでの防災対策の必要性がより強く伝わるよう、戦略的に情報発信し、「防災を切り口」にしたアプローチに着実に取り組む。加えて、「子育て」や「高齢者」などのテーマについても出前講座や出張相談等の開催事例を増やすことで、マンションと行政とがつながる入口を広げ、マンションコミュニティを醸成し、地域社会とのゆるかなつながりを進めていく。